

“デルネット” “ナルテックス” をフィルター分野へ

— 会場にロールサンプル持ちこみ切り出して配付 —

三晶(株)東京支店 東京産業資材課 根本 茂



根本 茂氏

米国デルスター社と共同展示

今回は米国デルスター社と共同して、樹脂ネット“デルネット”を主体とした展示を行う。

“デルネット”の最多ユーザーである、フィルターメーカーに対してとくにアピールしたい。現在、“デルネット”の総出荷量の7～8割は液体フィルター向けである。

高品位なネット “デルネット”

高密度ポリエチレンあるいはポリプロピレン製の2軸延伸ネット“デルネット”は、幾何学的に美しい開口部を持つフィルムネットである。

精度の高い通気度が得られ、バインダーや添加物を使用していないため薬剤の溶出がなく、フィルターやメディカルでの用途が多い。

また樹脂製のため熱融着ができ、不織布やメンブレンの補強材やスペーサーとして組み合わせて使用しやすい。液体フィルターの濾材の製造には欠かせない素材として市場から認知されている。

成長続くフィルター分野へ

フィルターの市場は成長を続けている。“デルネット”を使用するフィルターの大半は液体用途で、それも薬品や飲料用途が多い。

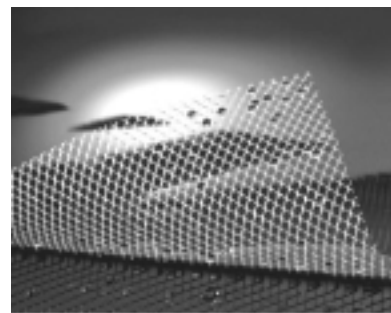
薬品は半導体などの工業用途や医薬の製造工程で使用されている。清涼飲料などの飲料用途も好調である。

このほか今回はデルスター社が2001年10月に合併した米国ナール・プラスチック社のネット“ナルテックス”も展示する。

これは液体用のフィルターに使われる事例が多い。ウェブが90度直交するシンメトリカルタイプと、長手方向に平行な繊維に斜めに交差させるノンシンメトリカルタイプがある。



デルネット



ナルテックス

り、チューブ状のフィルターカートリッジ製造に際して加工の自由度を高める。

会場でサンプルを出荷

具体的な展示内容は検討中だが、ロールでサンプルを持ちこみ、顧客に自由に切り出して渡せるような仕組みを準備したい。

●三晶・中央研究所

存在価値を高める研究開発力

三晶の研究所は1971年大阪府枚方市に設立以来、営業部門と表裏一体となって三晶の今日を支えきたが、さらなる顧客へのサポートを充実させるため02年、枚方市津田山手の津田サイエンスヒルズに中央研究所を新設した。

研究所は現在、①製紙薬品、②食品、③工業薬品、④機能紙・製紙原料・産業資材の4関連部門分野に分かれて、それぞれの研究開発活動を行っている。

同研究所には、各営業マンを通じて得意先ユーザーからの研究開発依頼や、ときには共同研究の申し込みなどが持ち込まれる。



その件数は取扱商品の特性分析などを含めると月平均80件以上になる。とくに三晶の独壇場ともいえる水溶性高分子による増粘、懸濁、分散、ゲル化などレオロジーコントロールの分野における応用研究には自信を持って活動している。

また、和紙より強い不織布と称される“パピロン”“サンピロン”など三晶の代表的なオリジナル製品もこの研究所から誕生している。